# 新署長さん こんにちは

## 多治見税務署長 黒柳（くろやなぎ） 智（さとし） 氏（59歳）にインタビュー

インタビュアー
担当副会長：大嶽　利彰
広報委員長：高垣　守宏
広報副委員長：松井　啓至

本日は、この７月の定期異動で多治見税務署に着任されました黒柳署長さんに広報委員会からインタビューに伺いました。

**―前任地はどこですか？**

名古屋国税局調査部に３年間在職し調査部門にて統括官を２年、前年は広域情報管理課長をしていました。

国税局の調査部は、資本金１億円以上のいわゆる大規模法人を所掌しています。名古屋国税局の調査部は約200人の職員が従事し、東海四県の約2,800社の法人を所管しています。所管法人には上場企業も数多くあり、トヨタ自動車やスズキなどの自動車メーカーやデンソーやアイシンをはじめとする自動車関連部品や機械製造等の製造業が基幹産業であり、日本経済の「ものづくり」を支えています。

調査部の調査について、皆さんなかなか馴染みが無いかと思いますが、私も初めて３年前から従事しました。基本的に１事案につき２～４週間位の臨場調査を要し、大規模法人の場合は２か月から中には半年近くかかる場合もあります。そもそも「紙」ベースの総勘定元帳が無く、すべてデータ保存のため、調査担当者１人につき１台のパソコンを用意していただきダウンロードした元帳データの中の何万行、何十万行の仕訳データから問題事項を探していくためパソコンの技術が無くてはついていけません。また、海外取引も多く国際課税の問題や審理上の問題も多岐にわたり３年間だけの在職でしたが大変勉強になりました。

**―ご出身を教えてください。**

出身は静岡県静岡市です。高校卒業まで住んでいましたが税務大学入校以来、名古屋に移り住み、現在は愛知県半田市に在住しています。

静岡市は、温暖な気候であり生まれてから高校卒業までの18年間で雪が積もったことは１度しかなく、名古屋に来て初めての冬に雪が積もり、真っ白な雪景

色に感動したことを覚えています。学生時代は中学校まで野球に打ち込む毎日でした。静岡県内の強豪校（ＯＢに広島で活躍された池谷公二郎さんがいます）だったため、部員数は100名近く在籍し、年間の休養日はお盆の３日間と大晦日と正月くらいしかなく、野球漬けの毎日でしたが、地区予選を勝ち抜き静岡草薙球場での県大会に何度も出場したことが良い思い出です。ちなみに、静岡草薙球場は、戦前に日本のプロ野球の黎明期に日本代表チームがアメリカ大リーガーと対戦し、沢村栄治投手がベーブ・ルースやルー・ゲーリックと対戦し０対１で惜敗した試合が行われた球場であり日本プロ野球の聖地でもあります。その時の記念碑が球場前に設置されていますので、興味のある方は一度見に行ってみてください。

## ―東濃地方の印象はどうでしょうか？

東濃地方は「美濃焼」に代表される「やきものの街」といった印象を強く持っています。良質な陶土に恵まれ1,300年以上の長きにわたり焼き物の文化と産業が息づいている街であり、その伝統を守りながらも新たな文化や産業が発生する地域だとも感じています。これから１年かけて多くの窯や美術館・ショップへ足を運び、東濃地方の文化を肌で感じてみたいと思います。

ちなみに私は、多治見署への勤務、そもそも岐阜県内の署への勤務も初めてです。旧庁舎の時に何度か出張で来たことがありますが、その時に比べ駅前がかなり綺麗に整備され東濃地方の中核地方都市といった印象をもちました。今年も暑い日が続いており、多治見市は何年か前に「日本一暑い街」になったと記憶していますが、あまり暑かったら駅北の公園の「ミスト」で涼ませていただきます。

## ―さて、人生観
## 座右の銘について、お伺いします。

「明るく、楽しく、面白く」をモットーにしています。仕事も人生も山あり谷ありでいろいろな出来事がありますが、「明けない夜はない」と思っていますので、明るく楽しくやっていくことにしています。そして、他人と同じ、前年踏襲では何も面白みがないので、自分なりに何か工夫をし、少しでも多くの人に共感が得られるように「面白く」やっていきたいと思っています。

先輩からいただいた言葉ですが、「矜持」という言葉を大事にしています。「自身が誇りを持って、恥ずかしくない振る舞いを行うこと」と承知しています。長く法人税の調査事務に携わってきたなかで、数多くの納税者、特に会社を経営する社長さん方とお話する機会がありました。皆さん「その道のプロ」であり多くのことを学ばせていただきました。そんな方々とお話をするには、やはり私たちも「その道のプロ」でなくては太刀打ちできるものではありません。「矜持」を持って真摯に仕事を進めていきたいと思っています。

## ―趣味を教えてください。

健康増進のために散歩とサイクリングをしています。40歳を越えた頃から健康診断で中性脂肪やコレステロールや高血圧の指摘を受け、散歩をするようになりました。今でも毎朝、小一時間近所を散歩して健康管理に注意しています。朝に散歩をすると、今日の予定や、やるべき仕事を整理できるとともに、季節の移り変わりを感じ日々新鮮な気持ちになれます。しかし散歩だと景色の変化が少ないので、50歳を越えた頃からサイクリングを始めました。出身地の静岡市は『日本の中国!?』と言われるほど子供から大人まで自転車を使っています。自分も高校時代は毎日10キロ程の自転車通学でしたので抵抗なく始められました。静岡での単身赴任時には、徳川家康が祀られている「久能山東照宮」近辺の海岸沿いのサイクリングロードを富士山と駿河湾を望みながら毎週走っていました。今は地元の知多半島を走っていますが、志摩半島と渥美半島との間に広がる伊勢湾とその先の太平洋とのコントラストを楽しみながら、途中の漁港や産地直売所で魚や野菜・果物等の食材を仕入れ料理をするのが私のリフレッシュ法となっています。

## ―税務行政の方針

私ども税務行政に携わる者として「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という国税庁の使命を果たすために、「納税者サービスの利便性の向上」と「適正かつ公平な課税と徴収」に努める必要があると考えています。

昨今、デジタル・トランスフォーメーション（DX）

を推進する動きが社会全体で広まってきています。データやデジタル技術を活用してサービスの在り方や働き方を見直すことやビジネスモデルの最適化が図られてきています。税務当局においても、デジタルの利点を最大限に生かし、税務行政を進めていくことが重要です。具体的には「あらゆる税務手続が税務署に行かずにできる社会」を目指し、法人・個人における確定申告のe-Taxによるデジタル化、納付手段の多様化とキャッシュレス納付の推進、納税証明の発行の電子化・簡便化、納税相談の効率化・高度化など「納税者サービスの利便性の向上」に努めてまいります。

また、多治見署は多くの若手職員を抱えていますが、「正直者には尊敬の的、悪徳者には畏怖の的」(昭和24年の国税庁創設時に米国歳入課長のハロルド・モス氏から送られた言葉)を肝に銘じさせて、「適正かつ公平な課税と徴収」の実現に向け指導していく所存です。

さらに、今年はいよいよ10月からインボイス制度が開始されます。現在も登録申請や負担軽減措置等の内容などの説明会等を実施していますが、引き続き適格請求書や帳簿等の記載事項や交付、保存、管理方法など個別の質疑に対する丁寧な説明を行うなど、インボイス制度が適切に開始されるよう努めてまいります。

## ―法人会に期待されることは？

多治見法人会におかれましては、永きにわたり「税」の良き理解者、「地域の税のオピニオンリーダー」として、また、良き経営者を目指す団体として、会員の皆様の自己啓発を積極的に支援し、納税意識の高揚と企業経営及び社会の健全な発展に寄与してこられ、大変心強い存在であると考えています。今となっては当たり前となっていますe-Tax（電子申告）の普及拡大につきましても、会員各企業や役員企業の皆様のご理解とご協力の賜物だと理解しており、改めて感謝申し上げます。

先ほど申し上げましたが、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という国税庁の使命を果たすためには、法人会の皆様方のお力添えがなければ到底成しえることはできません。

税務署としましても、皆様方と十分に意思疎通を図りながら、更なる良好な信頼・協調関係を築いていきたいと考えていますので、今後とも税務行政に対する力強いご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

**黒柳署長さんの楽しいお人柄が伝わるインタビューとなりました。コロナ制限もなくなりましたので、また近いうちにお会いできることを心待ちにしております。本日はお忙しいところ誠に有難うございました。**